2023-2024 年度　ROTARY　CLUB　OF　TOYOKAWA　HOI CLUB　WEEKLY

世界に希望を生み出そう

やらまいか

クラブテーマ：スマイルロータリー、新時代へ進化

会長／太田　稔　幹事／池田　弘　会報委員会／乙部享祐・杉浦和人・原田浩史
例会場／毎週火曜日 12：30　豊川商工会議所　　事務局／豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内
℡0533-86-2535　Fax0533-86-8889　HP：http://toyokawahoi.tank.jp/

本年度第１３回　通算１７３４回 ２０２３年１１月７日（火）	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	10/17 修正出席率
		７１名	３６名	５８．１％	７５％

ゲスト：地区ロータリー財団委員会　副委員長　久具信夫さん（豊川）　ビジター：（なし）

★会長あいさつ　太田稔会長

こんにちは。世間では、阪神が「アレのアレ」で３８年ぶりの優勝をいうことで、大阪の方では賑わっているようです。この地区では、豊川高校が駅伝愛知県予選で、女子は２連覇、男子は２年ぶりの優勝ということで、京都の方に今年も行くということで嬉しいニュースです。

また、１０日ほど前に豊川高校の野球部が、愛工大名電と決勝戦をやって優勝しました。試合を見ていて、初回に豊川高校が６点取り、ユニフォームが違うのではないかと思いました。対戦相手が愛工大名電なので、最後はギリギリで勝ったという試合でした。まだ決まってはいませんが、甲子園に限りなく近づいていると思います。

先月に豊川クラブとの合同ゴルフコンペと合同例会をやりました。ポリオ撲滅のチャリティをテーマにゴルフと例会を行いました。会員の皆さんには募金の協力ありがとうございました。良い例会になったと思います。

今月は、ロータリー財団月刊です。今日は、地区の財団副委員長の久具さんに来て頂きました。後ほど委員長から寄付のお願いがあると思います。よろしくお願いします。

★幹事報告　池田弘幹事

例会臨時変更のお知らせ
１１月１２日地区大会について
１１月１４・１５日の秋の行楽について
星野一人会員の退会について
星野会員の後任の方の入会について

★委員会報告

会報委員会　乙部委員長
　クラブ会報のアンケートのお願い

★ロータリー財団委員会担当例会

委員長あいさつ　加藤雅美委員長

本日は、ロータリー財団委員会の担当例会です。地区のロータリー財団副委員長の久具さんに来て頂きました。ありがとうございました。

会員の皆様には、一人１５０ドルの寄付の協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

卓話「財団をクラブ活性化に」　久具信夫氏

本日は、ロータリー財団月間にあたり、皆さまからの大切なご寄付がどのように使用されているかを説明し、ロータリー財団へのご理解を深めていただけるよう卓話をさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

また、先月の合同例会でポリオのチャリティコンペとチャリティ合同例会を開催して頂きましてありがとうございました。

1917 年 6 月 18 日、ヨーロッパで戦火が荒れ狂うころ、米国ジョージア州アトランタで開かれた第 8 回ロータリー年次大会で、「世界でよいことをする」ための基金の設置を、アーチ・クランフ会長が提案しました。その 1 ヶ月後に寄せられた、26 ドル 50 セントの寄付で始まった基金は、1928 年に正式に「ロータリー財団」と命名され、管理委員会が創設されました。

国際ロータリーは、皆さまの会費で運営していますが、ロータリー財団は、皆さまからの寄付のみで運営・活動をしています。

皆様、今年度の国際ロータリーの人頭分担金（＝会費）の金額はご存じですか？ 今年度は 75 ドル、会員 120 万人で 9,000 万ドルになります。　来年 2024-25 年度は 78.5 ドル、再来年 2025-26 年度は 82 ドル、と、どんどん上がってきています。

では、ロータリー財団は？　繰り返しになりますが、ロータリー財団の財源は世界中で集められた皆様からのご寄付です。今年度、ロータリー財団管理委員会はこれまでで最高額となる５億ドルを寄付目標に設定しました。内訳は、補助金の資金源となる年次基金は 1 億 5,000 万ドル、ポリオ根絶には 5,000 万ドル、それにビル&メリンダ・ゲイツ財団からの１億ドルの寄付が上乗せされます。そして恒久基金で 1 億 4,000 万ドル、その他の現金寄付等で 6,000 万ドル、の合計 5 億ドルです。

皆様からのご寄付は、すべて、財団本部で管理しています。昨年 2022-23 年度は貴クラブより年次基金おひとり 115.75 ドル　ポリオプラスおひとり 31.82 ドル、恒久基金 0 ドルをご寄付いただきました。多大なるご支援ありがとうございました。

本年度の地区のロータリー財団寄付目標は、年次基金おひとり 150 ドル以上、ポリオプラスおひとり 30 ドル以上、恒久基金は、クラブでベネファクター 1 名、または、1,000 ドル以上です。昨年度、恒久基金に寄付されたクラブは 35 クラブありました。大口寄付者は 2 名、ポール・ハリス・ソサエティ（PHS）は、昨年度 23 名が入会され、現在 50 名のメンバーがいらっしゃいます。

「大口寄付者」とは、一括 10,000 ドル以上を寄付される方です。寄付分類は問いません。

「ポール・ハリス・ソサエティ」とは、毎年 1,000 ドル以上を、年次基金またはポリオプラス基金に寄付することを約束された方を認証するためのプログラムです。

シェアシステムの説明をしたいと思います。要は、財団に集まった寄付をロータリアンの奉仕活動を行う時には、みんなでシェアをしましょう、ということです。これによって大きな事業も可能になります。皆様からのご寄付は、3 年間投資され、その収益が財団の運営に活用されます。例として、昨年 2022-23 年度の地区財団活動資金（DDF）の使われ方をご説明します。3 年前 2019-20 年度の年次基金寄付の 50%の 391,588.10 ドル、恒久基金の使用可能収益の 50%の 44,318.03 ドル、合計 435,906.13 ドルが財源となりました。ここから、パキスタンの洪水支援へ 10,000 ドル、ポリオプラスへ 55,000 ドルを寄贈しています。地区補助金は 56 クラブより申請があり、これが 134,761 ドル、グローバル補助金による奉仕

事業に５件、あわせて 110,300 ドル、グローバル補助金奨学生に 40,000 ドルを拠出しています。残金が 86,000 ドルほどありますが、後ほど説明するグローバル補助金奨学生の２人分と理解いただければよいと思います。

また、本来なら、VTT 事業も行うところですが、2022-23 年度もコロナ感染拡大の影響により実施することができませんでした。ちなみに、今年度の地区補助金申請額は、188,209 ドル、66 クラブから申請がありました。金額的に５万ドル増えています。グローバル補助金は、現在、名古屋守山 RC と名古屋清須 RC が申請書を作成中で、名古屋空港 RC、岡崎 RC、岡崎南 RC が申請に向けての準備をされています。さらに、詳しい内容はあとでご説明しますが、VTT 事業も行います。少しずつグローバル補助金事業に取り組むクラブが増えてきていますので、少しタイトになってきています。

シェアシステムの資金モデルが 2021 年 7 月に変更となり、来年 2024-25 年度から、年次基金寄付の 5%が、運営費として国際財団活動資金（WF）と地区財団活動資金（DDF）から均等に差し引かれることになりました。これによって、これまで「25%ルール」と言っていましたが、地区補助金申請可能額は「23.75%」となります。

毎年、このように卓話訪問をさせていただいていますが、地区の財団委員が訪問して卓話させていただくのは、今年が最後です。来年度から、各クラブの財団委員長が、財団セミナー等で聞かれた話をクラブの皆様にしっかりお伝えする機会として、11 月の財団月間を利用していただきたいと考えました。11 月の財団月間卓話のために、2024 年４月７日　地区研修・協議会、2024 年８月２日　財団セミナーに加え、10 月頃に名古屋地区・西三河地区・豊橋地区それぞれ１回ずつ相談会を設けたいと考えています。ご出席をお待ちしております。

さて、2021-22 年度のロータリー財団の支出は３億 3,000 万ドルです。支出の 89%が、各プログラムとその運営費に使われています。ポリオに一番お金を使っています。ここからは、一番多く使われている「ポリオプラス」についてお話します。

ポリオはエジプト時代の石板にも片足の細った患者らしき姿が描かれており、ヨーロッパでは古くから知られる感染症でした。日本では有史以来の文献に記述がなく、明治時代以降に海外から入ってきた疾患であるとの説が有力でしたが、日本の縄文時代の入江遺跡の人骨からポリオの痕跡がみられたとの報告もあり、その間の経過に関しては実はよくわかっていません。

しかし、1940 年代頃から全国各地で流行がみられ、1960 年には北海道を中心に 5,000 名以上の患者が発生する大流行となりました。そのため、1961 年に生ポリオワクチンを緊急輸入し、一斉に投与することによって流行は急速に終息しました。

ポリオウイルスは、人の口の中に入って、咽頭や腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。神経系を侵し、場合によっては死に至る病ですが、現在に至るまで明確な治療法はありませんが、ワクチン接種によりポリオの発症が予防できることはわかっています。そのためワクチン接種が推奨されています。

ロータリーがポリオの根絶を目標に定めた時には、ポリオの根絶などは夢物語だと思われていました。しかし、1985 年から「ポリオプラス」プログラムを開始し、1988 年には WHO と共に「世界ポリオ根絶推進活動」を立ち上げ、ポリオのない世界のために、先頭に立って活動してきました。こうした活動が実を結び、1988 年に 35 万人いた感染者ご覧のように激減したわけです。

ポリオの常在国はパキスタンとアフガニスタンの２カ国となり、これは直近のポリオの罹患者数ですが、今年に入ってからはゼロとなっています。ポリオは我々には関係ない病気なのでしょうか？そんなことはありません。

これは昨年7月の新聞記事です。ニューヨークとロンドンで、下水からポリオウイスが検出され、アメリカでポリオ罹患後の神経麻痺を認めた患者が発生し、8 月にはロンドンでポリオワクチンのブースター接種が行われました。これらは、ポリオがまだ『過去の病気ではない』ことを意味しています。すなわち、私たちの子供や孫たちも、今後ポリオに罹患する危険性がゼロはでないということなのです。発生者が激減しても多大な寄付が必要な訳は、ひとりでも感染者がいたら、新生児４億人に必ず予防接種しなければいけません。ポリオワクチン予防接種はすべての国で行っています。

この危険性を限りなくゼロに近づけるためには、世界中でポリオの野生株を根絶させることが一番重要なのです。これが達成できない限り、世界中でポリオワクチンを打ち続けていく必要があり、毎年このために、各国で、あるいはロータリーから多額の資金が拠出されているのです。ウイルスに国境はありません。対策しなければ、10 年間で 20 万人が罹患します。また、ワクチンは冷やして届けなければいけません。これをコールドチェーンと呼ばれ、ずっと維持しなければなりません。これは、COVID19 のワクチン配送でも役に立ちました。紛争地域でのワクチンデリバリーには、インフラが整っていないため、通常よりも多額の資金が必要です。ウクライナの接種率が紛争で低下しました。

では、もし根絶が達成されたらどうなるのでしょうか？日本では、1 回あたり約 5,000 円×4 回、子ども 1 人に約 20,000 円、毎年 160 億円ものお金がポリオワクチンのために費やされています。ポリオが根絶され、この資金が不要となれば、例えば子育て支援、あるいは出産費用の助成金など、さまざまに振り分けことができます。

たやすく根絶できるであろうと考えていましたが、1979 年のフィリピンにおける事業から関わり、すでに 35 年以上にわたり活動を行ってきており、資金も 22 億ドル以上かけてきました。ポリオが根絶されれば、人類にとってこれ以上ない貢献となります。毎年ロータリーでポリオに使う 1 億 5,000 万ドルがフリーになり、日本では、ポリオ不活化ワクチンに使う 160 億円が不要になります。

続きまして、地区補助金についてお話したいと思います。地区補助金は、地元や海外の地域社会のニーズに取り組むための、比較的規模の小さい、短期的な活動を支援する補助金です。

先ほども説明しました通り、来年 2024-25 年度は、2021-22 年度の年次基金寄付額の 23.75%が補助金申請可能額になります。クラブの拠出金は 0 でも構いません。

申請要件としては、ロータリー財団の使命に沿っていること、ロータリー会員が積極的に参加することが大切です。

特定の人、団体、地域社会に対する継続的または過度の支援、募金活動、ロータリー行事に関連する経費、受益者や協力団体への使途無指定の現金寄付等々、補助金を受領する活動では、これらを行うことはできません。この事に注意して計画を立ててください。詳細は『地区補助金　授与と受諾の条件』をよくお読みください。

また、ローターアクトクラブもロータリーの一員として、補助金が利用できるようになりました。ただ、ローターアクトクラブは 3 年前に寄付をしていません。提唱クラブの「申請可能額」の一部を使用していただく事になります。提唱クラブと相談をして下さい。

2023 年 12 月、次年度地区補助金事業の予定に関するアンケートを実施します。より大きな事業をやりたいと思うクラブには、使わないクラブの補助金枠を使えるようにしたいと思います。ただし、これは『共同事業』に限ります。委員会からはアンケート結果による情報はお伝えしますが、マッチングについては関与いたしません。お早めに 2024-25 年度の事業構想を練ってください。

続きましてグローバル補助金についてです。2 ヶ

国以上のクラブ・地区が、7つの重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす、大規模な国際的活動を支援する補助金です。

申請要件は、地区補助金と同様に、ロータリー財団の使命に沿っていること、ロータリー会員が積極的に参加することに加えて、2カ国以上のクラブ・地区が参加すること、最低予算3万ドル以上であること、持続可能性を担保すること、測定可能であることです。

このグローバル補助金の活動では、①受益社会の人びとがサポートしていること、②ロータリー会員が主導すること、③測定可能な結果、数値化して残すこと、④補助金が使い尽くされた後も地域社会が自力で持続していけるものであることが条件になります。

クラブからの現金拠出の8倍までのDDFを申請することが可能です。上限は4万ドルです。クラブ理事会を通したうえで申請をしていただくために、このようなシステムにしました。My ROTARYでの申請手続きを始める前に、必ず地区ロータリー財団委員会にDDF申請書を提出し、財団委員長との面談を行ってください。

グローバル補助金奨学生についてです。グローバル補助金の海外の大学院で、ロータリーの重点分野のいずれかに該当する分野を専攻する方を対象とした、返済不要の奨学金を給付するプログラムです。以前はどのような分野でも奨学金を申請することができましたが、未来の夢計画導入によって、ロータリーの重点分野に限定されました。実務経験は不要です。皆様ご存じの日本人初の国連難民高等弁務官をつとめられた、緒方貞子さんや、軍縮担当国連事務次長の中満泉さんも財団奨学生でした。

ロータリー財団は、2023年、米国の慈善団体の格付けを行う独立機関であるチャリティーナビゲーターから、15年連続で最高の四つ星評価を受けました。この評価は、ロータリー財団が透明性を重視し、責任ある管理を行っていることを認められたことによるものです。

2023-24年度の地区の財団寄付目標は、年次基金寄付お一人あたり150ドル以上、ポリオプラス寄付お一人あたり30ドル以上をお願いしております。ポリオプラス寄付では5000万ドル集まれば、ゲイツ財団から1億ドル提供されます。恒久基金は、クラブで新規ベネファクターを1名以上、または1,000ドル以上、大口寄付は地区で5名以上が目標です。

ロータリーのクレジットカードご利用のすすめです。例えば、カードで2万円のショッピングをすると、0.3%＝60円自動寄付されます。

2022-23 ダイナースクラブカード利用実績です。クラブカード 106,626,000 円、委員会カード4,123,000円、地区カード9,461,000円、地区合計で120,210,000円分利用されています。ちなみに日本全体では、2,573,270,000 円利用されています。入会費・年会費は無料です。
このクラブカードを「例会費」、「人頭分担金」、「ロータリー財団寄付」の支払い等、必ずかかる経費に対して、是非使っていただきたいと思います。

最後に、クラブの活性化に、ロータリー財団を是非ご活用ください。ご清聴ありがとうございました。

★ニコニコボックス

久具信夫様	本日は宜しくお願いします
加藤雅美会員	久具さん本日は宜しくお願いします
細井　勉会員	誕生日を祝って頂き
坂口幹夫会員	〃
柴田浩志会員	〃
太田　稔会員	〃
鈴木卓也会員	結婚記念日を祝って頂き
乙部享祐会員	〃
樅山修一会員	〃
高桑　耐会員	創業と入会を祝って頂き
小野喜明会員	事業所創業を祝って頂き
林　博宣会員	〃
ゴルフ同好会	コンペ開催

会報担当：乙部享祐・杉浦和人・原田浩史